

■江藤新平 維新直後に、司法制度はじめ近代国家の基本設計を成したが、薩長派と対立、佐賀の乱起こして刑死。

えとうしんぺい

高島砲術 1834 = 佐賀郡八戸村に生まれる。

大塩平八郎乱 1837 = 3歳 :

貧窮の家庭に育ち、

順天堂始 1843 = 9歳 :

阿部正弘首座 1845 = 11歳 :

1848 = 14歳 : 元服。

北斎没 1849 = 15歳 : 藩校弘道館に学ぶ。

国定忠治疎 1850 = 16歳 : 国学者枝吉経種の義祭同盟に参加して攘夷論を唱える。

万次郎帰国 1852 = 18歳 :

ペリー来航 1853 = 19歳 :

松下村塾 1856 = 22歳 : 「図海策」を執筆。

蕃書調所 1857 = 23歳 : 結婚。

安政の大獄 1859 = 25歳 : 御火術方目付。

桜田門外変 1860 = 26歳 : 上佐賀代官所手許。

遣欧使節 1861 = 27歳 :

生麦事件 1862 = 28歳 : 代品方となったが、脱藩して尊攘運動に参加し、藩庁より永蟄居に処せられる。

その結果、維新に至る動乱期には参加せず、蟄居しながら思索を進めることになった。

薩摩藩士密航 1865 = 31歳 : 藩主ほかあてに建言書。

大政奉還 1867 = 33歳 : 許されて監察となり、上京。

明治維新 1868 = 34歳 : \*明治政府の成立とともに徴士として出仕。以後、次々と政策立案。東征大総督府軍監となり、江戸鎮台判事として江戸開城直後の施政を担当。「東京遷都建言」。その後、会計官判事、東京府判事、

戊辰戦争終 1869 = 35歳 : 帰郷し佐賀藩権大参事として藩政改革に従事。再び政府に呼ばれ、虎の門事件で重傷。

初の日刊新聞 1870 = 36歳 : 制度局御用掛として、岩倉具視に答申、民法会議、国法会議の開催にこぎつける。

廃藩置県 1871 = 37歳 : 「御下問案」。初代文部大輔、左院副議長をつとめ、

学問のすすめ 1872 = 38歳 : \*初代司法卿となる。その立法の知識は群を抜いており、司法卿時代に司法権の独立を主張して薩長派と対立し、また改定律例の制定やフランス法を直訳した「民法草案」など民法編集事業を推進した。「司法省の方針を示すの書」「司法職務定制」。

明治6年政変 1873 = 39歳 : \*「民法仮法則」。参議となり、西郷隆盛、板垣退助らといわゆる征韓論を唱えたとされ、敗れて辞職。

佐賀の乱 1874 = 40歳 : \*板垣らと、日本最初の政党を創設し、自由民権運動の出発となる民撰議院設立建白を政府に提起したが、佐賀に帰って征韓即時断行を主張し、佐賀の乱の首謀者とみなされてしまうことになる。政府軍に鎮圧され、再挙をはかるため脱走したが土佐甲浦で逮捕され、佐賀城内二の丸刑場にて梟首刑に処せられる。